

ビジネスをリスクにさらさない いでください

ソフトウェア・セキュリティを意識することの重要性

オラクルは、お客様が事業運営に使用するソフトウェアは安全かつ包括的で信頼できる必要があると確信しています。

昨今、Rimini Street は、現実のセキュリティの課題に対して、別のアプローチを発表しましたが、またそのアプローチは不十分なものであると考えています。

Rimini がオラクルのシステムを脆弱性から保護するためのソリューションとして提示している「ホリスティック・セキュリティ」や「バーチャル・パッチング」という考え方は合理的なものではなく、ビジネスをリスクにさらすこととなります。

オラクルは、相互接続されたネットワークへの侵入からお客様のオラクルシステムを保護するには、ホリスティック・セキュリティもバーチャル・パッチングも十分ではないと考えています。どちらのアプローチにも、関連するオラクルのソース・コードを変更修正するセキュリティ更新プログラムが含まれていないためです。オラクルはソース・コードを変更して、新たな脅威によってもたらされる脆弱性に対処する更新を提供できます。ソフトウェア・スタックのすべてのレイヤーでのセキュリティを提供できるのはオラクルだけです。

実際、安全なソフトウェアはそれ自体では完結しません。セキュリティは、開発およびサポート組織の継続的な取り組みを必要とするプロセスです。製品開発ライフサイクルのすべてのフェーズを網羅する Oracle Software Security Assurance (OSSA) は、製品の設計、構築、テスト、および保守にセキュリティを組み込むためのオラクルの方法論です。オラクルの目標は、オラクルの製品がお客様の自社セキュリティ要件充足に役立つということを確認しながら、最も費用対効果の高い所有体験を提供することです。

Oracle Software Security Assurance は、業界をリードする標準、テクノロジー、手法をまとめたもので、以下の実現を目的としています。



セキュリティ・イノベーションの促進

セキュリティ・イノベーションに関しては、オラクルには長い伝統があり、現在では組織において、ハイブリッド・クラウド・データ・センター全体にわたる一貫したセキュリティ・ポリシー、つまり、データベース・セキュリティおよび ID 管理ならびにセキュリティのモニタリングと分析の導入・管理を支援するソリューションに受け継がれています。

あらゆるオラクル製品におけるセキュリティ上の脆弱性の発生件数の低減

Oracle Software Security Assurance には主要なプログラムとして、オラクルのセキュア・コーディング・スタンダード、開発向けの必須セキュリティ・トレーニング、開発グループ内でのセキュリティ・リーダーの育成、自動分析とテスト・ツールの活用が含まれています。

リリースした製品に含まれるセキュリティ上の脆弱性がお客様に及ぼす影響の低減

オラクルは、セキュリティ脆弱性開示の透明性および修復ポリシーを採用しています。同社は、Critical Patch Update プログラムやセキュリティ・アラート・プログラムを通じて、セキュリティ・パッチを最大限提供できるように取り組んでいます。

このように、コード修正しシステムを脆弱性から保護するパッチに代替するものではありません。また、プロアクティブな変更管理プロセスに代替するものもありません。これら 2 つを組み合わせると一貫したリリース管理プロセスを築くことができ、お客様がシステムとデータを保護するために必要となるレベルのセキュリティを実現する最善の方法です。また、ハッカーによる脅威が増大し、セキュリティ違反に対する責任が増す中で、データ・セキュリティに関する政府規制当局の関心が高まっている環境において、適切な措置を講じないことは、重大なリスクを冒すことになるかとオラクルは考えます。

ソース・コード内で特定された脆弱性を是正する最善の方法はソフトウェア・ベンダーが提供するパッチの適用であることに議論の余地は実質的にないと思われます。つまり、オラクル・ソフトウェアの脆弱性を是正できるのはオラクルだけです。Rimini Street について、また Rimini Street 及びオラクルの信頼できるサポートが、現実のセキュリティの課題からソフトウェアを保護する方法の詳細については、[当社の Web サイトをご覧ください](#)。

お問い合わせ先

oracle.com/jp/support をご参照いただくか、弊社担当営業までお問い合わせください。

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oracle

 twitter.com/oracle

Copyright © 2023, Oracle および/またはその子会社。版權所有。本文書は情報提供のみを目的として提供されており、記載内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle と Java は Oracle および/またはその子会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの所有者の商標です。

Intel と Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。SPARC 商標は全てライセンスを受けて使用されており、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は The Open Group の登録商標です。0120